

また、ウイルスに感染してもすぐには発症せず、潜伏期が2～14日ありますので、日本に帰ってきたときにはなにも症状はなくても、その後発症することがあります。患者さんが渡航歴をきちんと伝えなかったり、医療機関がMERSを疑ってきちんと感染対策を取らなかったりすれば、日本でも韓国のようなことが起こる可能性はあります。

現在までのところ、韓国では病院以外では患者さんは発生していませんので、韓国に行ったとしても普通に街で観光しているぶんには、感染するリスクは非常に低いですが、韓国の医療機関などでMERSの患者さんと接触すれば感染する可能性があります。中東地域に旅行に行くのも大きな問題とはなりません、この文章を読まれた方は、月の砂漠でラクダに乗って遊ぶというようなことはしない方がいいでしょうね。

MERSにかかったかもしれないと思ったら、どうしたらよいでしょうか？

MERSはMERSコロナウイルスによる感染症です、これは空から降ってくることはありませんので、ウイルスを出しているラクダかMERSの患者さんと近距離で接触しない限り感染することはありません。また、MERSに

感染したとしても、発症しない限り診断はできませんが、発症していなければ感染性もありませんので、他のヒトにうつす心配もありません。しかしながら、ラクダや患者さんと接触した覚えがあって、帰国後に発熱したら、必ず医療機関の、まず受付で、最初にそれを伝えてください。これがあなたの早い診断につながり、早い治療につながり、自分を救うことになり、そして自分の家族や友人、医療機関のスタッフ、ひいては日本全体を守ることになります。一方では、発症したヒトは、当初は咳も少ないですし、たくさんウイルスを出すことはありませんので、他のヒトへ感染させることは少ないのですが、発症後4～7日たって、症状が強くなって、重症になりつつある頃に感染性が最大になりますので、そのような時には特に注意して頂くことが大切です。受診するときには必ず、マスク(不織布製の外科用マスク)を着用してください。(臨床研究部長 谷口 清洲)



(東北大学中島一敏博士より)

5病棟の生活のひとコマ

5病棟にマジシャン登場!

前号にも紹介させて頂きましたが、5病棟(重症心身障害児者病棟)での生活を少しみなさんにご紹介したいと思います。5病棟では、月1回の誕生会と季節ごとの行事があります。4月の誕生会は、大正琴ボランティア「アモーレかめ

突然傘が出てきたり、小さな布が大きくなったり…と驚くことばかりのマジックに、患者さんたちは興味津々♪ととても不思議そうに見ていたり、ビックリしたり、「う～」と思わず発声したり、あんこさんを指さしたり…と、20分が「あっ」という間に感じるほど、マジックを楽しんでいました。

5病棟は治療の場であることはもちろんなのですが、生活の場でもあります。呼吸器管理や吸引等があり、長時間の外出や外泊もなかなか難しい患者さんたちも多いです。そのような患者さんたちにとって、病院スタッフ以外の方に出会うことは、とても刺激的なようです。今後いろいろなボランティア団体の皆さんにご協力いただきながら、さまざまなイベントを企画していきたいと思えます。6月は社交ダンスを披露して頂きました。次号も5病棟の生活のひとコマをご紹介しますので、お楽しみに～♪

(児童指導員 丸澤 由美子)



▲あんこさんの素敵なマジック

やま)の皆さんが来て下さいました。5月は「ふれあいまつり」でもご協力くださっている、「あんこさん」に素敵なマジックを披露して頂きました。以前「あんこさん」は、三

重病院で保育士をしておられた方で、マジックを習い、さまざまな施設や病院へボランティアに行っておられます。

7月 三重病院 外来糖尿病教室のお知らせ

夏の生活について

暑い夏を乗り切るためのコツを伝授します!

糖尿病患者にとって、暑い夏は危険な季節です。熱中症や脱水、食中毒を予防し暑い夏を乗り切りましょう。



日時 平成27年7月22日(水) 14:00～15:00

場所 中央棟2階 大会議室 (詳しくは職員にお尋ねください。)

関心のある方は、どなたでも参加できます。当日直接会場にお越しください。参加費は無料です。

お問い合わせは 059-232-2531 内科外来まで

